

「OR/MS とシステムズ・マネジメント」研究部会特別セッション

— 組織事故をマネジする —

01205200 電気通信大学 * 住田 友文 SUMITA Tomofumi
電力中央研究所 高野 研一 TAKANO Ken'ichi
01203740 新潟国際情報大学 杉野 隆 SUGINO Takash

システムズ・マネジメント

オルガナイザー 電気通信大学 住田 友文

1. はじめに

「OR/MSとシステムズ・マネジメント」研究部会では、これまで「システムを如何にマネジすべきか」というテーマのもとに、主として企業組織に焦点をあてて研究討議を続けてきた。ところが、昨年は日本の技術にとってエポックとなるような事件が重なった。それは、しばしば「3点セット」といわれるものである。すなわち、JCO「臨界事故」、JR新幹線トンネル・コンクリート壁剥離、H2ロケット発射実験の失敗である。さらに今年になってからも雪印乳業の事故が続いた。こうした事故の再発防止は喫緊事であるにもかかわらず、前車の轍が生かされず、続発している。そこでわれわれは、これらを「組織事故」の観点から捉え、事故防止を系統的にマネジする方策を探ることを企図した。

2. 問題意識

上記の諸事故を「組織」に起因するとすると、従来の日本的経営に対する見方の抜本的変更を余儀なくされるのであろうか。つまりQC（品質管理）活動などで発揮されたクラフトマンシップが崩壊したのであろうか。ある識者は、その見方に否定的である。とすると真の原因はどこにあり、その効果的な処方箋はどのようなものか。われわれは、本セッションでこの点を問うていきたい。

3. 構成

先ず、オルガナイザー（住田）の趣旨説明に続いて、「組織事故と安全文化」と題するキーノート・スピーチ（高野）が行われる。続いてコメンテータ（杉野）のショート・コメント「組織事故とセキュリティマネジメント」が行われる。それを承けて3者によるパネル討論がなされるが、その後半にはフロアからの積極的な質疑や意見も採り入れて立体的有機的な展開が予定されている。

参考文献

- [1] 村上陽一郎 科学の現在を問う、講談社現代新書 2000年5月
- [2] 「組織知能と情報システム」研究部会活動報告書 2000年6月